

オペラガラス

発行日 / 2013年3月29日(金)

編集・発行 厚木演劇鑑賞会幹事会

〒243-0014 厚木市旭町 5-43-1 三橋パークビル 305

TEL/046(228)9325 FAX/046(228)9349

E mail:atsugi enkan@g2.so net.ne.jp

<http://www.enkan.org>

寒い寒い冬が終わったと思ったら、
観梅を楽しむ間もなく(?)、桜の花見
もあつという間でしたネ...

さて、体も温かくなってきた季節に
今度は心も温かくなる

例会を迎えます...

この観劇の楽しさを、
廻りに伝えて、暖かさの
輪を広げていきましょう!



第150回例会

劇団 昂公演

『隣で浮気?』



作 / アラン・イクボーン 演出 / コリス・バーター

出演 / 岡田吉弘・林佳代子

宮本 充・落合るみ ほか

今回の例会は、イギリスでは、最も有名な劇作家の一人、アラン・イクボーン
の、大人のラブコメディです...

今回の例会は、1989年第20回例会『セ
ールスマンの死』から実に24年ぶりに例会と
して厚木に登場する、劇団昂による公演です。

原作のアラン・イクボーンは、“サー”の
称号を持つほど、イギリスでは有名な劇作家で、
七〇歳を過ぎた今でも現役の劇作家です。

日本では言えば、さしずめ故・井上ひさし氏
のような人気劇作家です。井上さんは『むずかし
いことをやさしく、やさしいことをふかく、ふ
かいことをおもしろく』をモットーにしていた
作家です。

一方、イギリスの中産階級特有の性格を持つ
人びとを描くイクボーン作品が、世界30数
カ国以上に翻訳されて、いまなお世界中で上演
されているのかというと エイクボーン研

究秀者の第一人者であるポール・アレン氏は、
「結局、彼の描く人々 あまりにも感情があり
過ぎる人物だったり、あまりにも感情がなさ過
ぎる人物だったり の持つおかしさは、イギリ
ス限定でなく、どの国の人にとっても興味深く
楽しめるものなのです。イギリス人がモスクワ
から離れた田舎の屋敷のことを知らなくても
チエーホフ(筆者註、「アンナ・カレーニナ」
のこと)を楽しめるように。」と語っています
が、ここが井上さんとの違いです。

日本では、江戸時代に“士農工商”、明治に
は、天皇家を頂点とする皇族や、“公侯伯男”
といった貴族と臣民といった階級社会があり
ましたが、今はその意識は薄れています。

イギリスでは未だに“階級社会”の意識が残
されています。それを皮肉ったイクボーンの
コメディは数年前までは、日本では受け入れら
れにくいというのが一般的でした。

しかし、ここ数年、日本でもイクボーンの
シニカルなコメディが受け入れ始めています。
ちよつと皮肉っぽくいうと、バブル時代から
日本では“階級社会”ではなく“格差社会”が
広がっていったからかもしれません。

こう書いてしまうと、ちよつとめんどくさそ
うなお芝居そうだなあと思われしまうのも困
るのですが、そうはさせない翻訳の妙もありま
すし、舞台特有の視覚的楽しさも隠されていて、
これは観てのお楽しみです。

とにかく舞台は、自分の想像力をいかに豊か
にすることから楽しみが生まれます。

みなさん、ぜひ今回は想像力をフル回転させ
て、遠いイギリスの世界を楽しみましょう。

第149回例会・劇団前進座公演
夢千代日記のつぼれ話

運営サークルの皆様、お疲れさま！

2月1日(金)・2日(土)海老名市文化会館での海老名演劇鑑賞会の合同例会は、初日の天候が心配去れましたが、さほどの雨と風でもなく、両日も無事に開催することができました。

今回の運営サークルでは、

まず、11月21日のプレ顔合せでスタート。

12月5日・6日の第1回から、2月6日まで、計5回の運営サークル会となりました。担当は18サークル、6未サークルでしたが、実際に参加したのは、14サークル、2未サークルでした。

例会の感想を交えての自己紹介から始まって、財政のこと、作品のこと、劇団のことを話し合い、役割分担して準備を進めていきました。年に一度の運営サークルですので、初めてお会いしてお話する方もいらつしやる中での会になります。そういう会合ですが、例会作品の魅力や素晴らしさを語り合うと、一緒にこの作品を迎えているというつながりを実感するひと時になっているように思えます。この鑑賞会ならではの絆も大切にしていきたいなと思います。

この期間は特に自分のまわりの人たちに、芝居の楽しさや魅力を伝えていきたいなと思っているのですが、なかなか形にできなくて月日が過ぎていつてしまいました。運営サークル会に複数で参加することができたことはよかったのですが、今回の例会では例年になく退会数が多く、16名もの新入会を迎えたにも関わらず、前例会クリアができませんで

した。このことは残念な残念なことではありましたが、何とか最後の第5回運営サークル会まで辿り着くことができ、ホッとしたというのも正直なところですよ。

例会前そして当日のあれこれ

その1。12月いよいよ運営サークルが始まる。個人的にまずしたことは、伊勢原市内の各公民館廻り。ポスターの掲示依頼、「観劇のお誘い」チラシを置かせてもらうこと。伊勢原市民文化会館と秦野市文化会館にもお願いする。それから自宅の玄関に「夢千代日記」のポスター(A4版)を掲示。

その2。1月25日、舞台稽古見学会(吉祥寺の前進座劇場)駅前が工事のため迷ってしまつというハプニングがありました。行ってよかった。例会当日がとても楽しみになり、わくわくして例会を迎えることができたから。これって運営サークルの役得かも。だって2回もお芝居を観ることができ、2回も役者さんにあえるんだから。ただ残念だったのは、前進座劇場の閉館。これを書きながら頭をよぎったのは、会報149号の「風・知・草」の文章、『古いものが無くなっていくのは悲しいことである。出来るなら何とか残って欲しかった。しかし、形あるものはいつか壊れ、新しいものが生まれてくる。前進座劇場はなくなってしまうけれど、また新しい稽古場で稽古した素晴らしい舞台をみせて下さるだろう。』

その3。サークルからのひとことふたことみこと。久しぶりに心にぐっと来て涙が出てきてしまった。来て良かった。けど考えさせられた。福島第1原発事故のことにつながっていくお芝居のように思えたから。

夢千代さんの「死の底に引きずりこまれる」という悲痛な叫びがなんともいえなかった。

マコトさんが夢千代さんに渡した櫛のことが気になってしまった。何故買ってあったんだろつ、何のために買ったんだろつと。

運搬車両係だったが、意外と荷物が少ないで助かった。ただ事務所の階段の昇り降りはいんどかつた。筋トレと思えばいいか。

終演後のポスター渡しの方担。始めは恥かしくて声が出なかつたけど、段々と大きな声ができるようになった。

館内のレストランで季節限定のカキフライ定食を食べることができて満足。大好きなんです。「花(芝居)も団子も」の私でした。

運営サークル会でお会いした中に、ハンゲルにお詳しい方がいらつしたので、事務所でハンゲルの教室を開いてくださるといいなと思った。

運営サークルを終えて

運営サークル会に参加して、作品のことや劇団のことなどを話し合う事で、新たな発見や出会いがありました。舞台装置の搬入・搬出を劇団の皆さんと協力して一緒に取り組んでいくことで、部隊を一層身近に感じられるようになりました。これも鑑賞会ならではの楽しさなのではと思います。これからも一人でも多くの会員さんとお芝居を観ていくことができればと思います。残念ながら、前例会クリアは出来ませんでした。これからも身近な厚木で魅力あふれる作品に出会っていただけたいなと思っています。

(運営担当サークル/ユリ口)



前進座恒例の開演前の運営サークルと出演者との対面式